

酪農大学校が農場HACCPの推進農場に 県内で初めて指定される！

(一社) 岡山県畜産協会 家畜衛生部

公益財団法人中国四国酪農大学校（以下「酪農大学校」）が、平成24年6月から岡山県畜産協会、日本食品安全検証機構、家保等支援組織と一体で取り組んできた農場HACCPについて、**認証の一定の要件を満たした推進農場としての指定を県内で初めて3月28日に受けました。**農場HACCPは、食品衛生分野のHACCP（国際的に推奨されている衛生管理手法）の畜産の生産現場版であります。近年、食の安全に対する関心が高まっていることから、生産から流通加工、そして消費段階まで一貫した衛生管理による安全な畜産物の供給が求められており、農水省においても、こういった状況を踏まえ、生産現場にも危害要因分析、必須管理点の考え方を取り入れ、畜産農家自らが危害要因や管理点を設定し、記録し、農場段階での危害要因をコントロールする、いわゆる**農場HACCP**を推進しています。

酪農大学校では、農林水産省の山野課長補佐（現 畜産企画課）、中央畜産会の宮島常務、日本食品安全検証機構の茶菌理事長、県の若田畜産課長（現 農林水産総合センター）、おかやま酪農協の東山組合長外来賓多数の出席のもと、認証取得を目指して一丸となって取り組むことを確認するためのキックオフ宣言を行いスタートをきりました。以後、「消費者の求める安全で高品質な生乳を継続して生産するため、農場HACCPを取り入れるとともに、実践、指導できる酪農担い手の人材育成を通じ普及に貢献する」ことを衛生管理方針に定め、毎月1回、職員と支援員が、認証基準が求める

要求事項の作成に取り組んできました。安全で高品質な生乳を生産するためには、育成牛から搾乳牛に至る全ての段階で牛を健康かつ安全に管理することが基本となります。このため、まず、子牛、育成牛、未経産牛、乾乳牛、搾乳牛の各ステージの管理工程を紙面に表してみました。すると、19工程500項目を越える作業によって管理されていることが分かりました。これらの工程表の作成にあたり、職員間で話し合いを進める中で、手順が職員によって異なっていたり、安全管理が適切に行われていない作業があるなど問題点も数多く発見され、日頃の管理を見直す良いきっかけとなりました。現在は、各項目の作業分析を進め、その危害要因の分析、そして予防対策を含めた一般衛生管理プログラムの作成に取りかかり、年度末の認証取得に向けて取り組んでいるところであります。



キックオフ宣言

(全国の状況)

認証農場 31 農場(牛 5、豚 18、鶏 8)
推進農場 109 農場(牛 22、豚 56、鶏 31)